良城小 URL：http//www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/

良　城　小　学　校
学校だより 11 月号
児 童 数 8 2 7 名
平成 29 年 10 月 25 日

かわらばん

学校の「敷居」をもっと低くしたい

校長　増　野　淳　一

先日、吉敷地区の人権学習推進協議会の幹事会が開かれ、本校からも、校長と人権担当教員が参加しました。本校では、10月12日に人権参観日･講演会を開き、地域の方々も多数来ていただきました。会議では、今後は、講演会を合同開催したり、学校の体育館で実施したりと、人権教育の分野でも、小学校と地域との連携を一層進めていきましょうと話し合われました。

この様に、学校教育と地域の活動は重なる部分が多くあります。特に人権教育のような心の分野においては、学校だけではその成果には限界があります。学校と家庭と地域の誰もが同じ感覚をもって、他人に優しく接していかなければ、児童の本当の心は育たないと考えます。

前回のかわらばんで記した「良城しぐさ」についても、家庭と地域が一体となった取組が欠かせません。

現在、山口県の全ての小中学校は、「コミュニティ･スクール」（略して「コミスク」）となっています。コミスクとは、子どもの教育を、学校だけでなく、学校と地域が強力に連携して行う学校を指します。県では、求める学校像を「地域に開かれた学校、地域づくりに貢献できる学校、地域の人々の拠り所となる学校」として、全国に先駆けて、昨年度から全ての学校をコミスクとしました。

コミスクには、学校運営協議会があります。この会は、学校の取組について、今の課題の把握とその解決に保護者と地域に「参画」していただくための会議で、学校としても職員会議に並ぶ大変重要な会議です。本校では、自治会長さんや地域交流センター所長さん等の地域の代表者や PTA 会長･副会長さん、地区内園･校長に委員となっていただいています。

先日、第２回の学校運営協議会を開催し、良城しぐさの取組について、以下のような大変貴重なご意見をいただきました。

- 我々地域の大人も同じように行動していくことが大切。大人が手本を見せる地域にしたい。
- 現在、次期地域計画の策定を行っているので、地域のマナーアップについても取り入れていきたい。
- 親としても良城小の良さを再認識して、家庭の中でも見せてくれるように取り組んでいきたい。

この協議を受けて、各方面で、具体的な取組を進めていきたいと考えています。今後の学校運営協議会では、学校の地域連携や新しい学校教育目標の設定などについて協議を行っていく予定です。

先の人権協議会の協議を通し、まだまだ学校の敷居は高いと感じておられる方が多いと感じました。

本校の教育推進フレーズである「みんなで創る『子どもが輝き　楽しくてたまらない良城小学校』」のためには、保護者と地域の皆さんの一層のお力添えが不可欠です。

そのために、今後、もっともっと学校を開いて「敷居」を一層低くし、日常的に保護者や地域の方に学校に来ていただいて、より多くの温かい目で見守っていただけるような取組を進めて参ります。また、学校が地域づくりの核となるような取組も考えて参りますので、皆様方のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

※人権授業参観、講演に対する保護者の皆さんの感想を読ませていただきました。こんなにも多くの方に、しかも非常に中身の濃い感想をいただき感動しました。吉敷地区は素敵な保護者だからこそ素敵な子どもが育つと、本校に赴任したことをうれしく思うと同時に、改めて、本校教育推進の責任の重さに身の引き締まる思いがいたしました。